

第1回佐用町地球温暖化対策実行計画検討委員会

日 時	令和7年11月10日(月) 13時30分~15時00分
場 所	佐用町役場本庁 西館2階 防災会議室1
出 席 者	<p>【委員】増原直樹、藤本正文、井上洋文、久保正彦、古川 貢、合田裕宣、尾崎貴之、高見國一</p> <p>【事務局】住民課 福岡課長、新井室長、川中主事</p> <p>【国際航業】福田、小西</p>
配 布 資 料	<p>(事前配布)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1:佐用町地球温暖化対策実行計画検討委員会設置要綱 ・資料2:計画策定スケジュール ・資料3:計画書素案(第1章~第2章) ・資料4:アンケート調査結果 ・参考:取組事例
議事内容	
1 開会	
2 あいさつ	~略~
3 委員紹介	~略~
4 佐用町地球温暖化対策実行計画検討委員会及び座長選出について	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長に兵庫県立大学准教授 増原氏、副委員長に佐用町連合自治会長 藤本氏を選任した。
5 議事	(1)計画策定スケジュール(資料2) 資料2に基づき受託者(国際航業)が説明
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートについて。無差別に実施して70歳以上の回答者が多かったとのことだが、もっと若い世代の方にアンケートを取ることが必要ではないか。
受託者	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代の意見も回収したかったため、紙のアンケートだけでなくWEBでのアンケートも実施したが、最終的には若い方からあまり回答がいただけなかった。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・将来を守っていくことについては若い人の意見を特に重要視された方がよい。役員についても、もっと女性や若い人が入っていた方がよかった。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・検討委員会を開催するにあたり、若い方や女性の意見も聞きたかったため、企画部門担当を通じてお声掛けさせていただいたが、本会議の日程とスケジュールが合わなかった。(平日の昼間というのが難しかった) ・アンケートも全世代に送付したものの、若い方の回答率が低かったことは反省点である。
	(2)計画の基本的事項(資料3) 資料3に基づき受託者(国際航業)が説明

第1回佐用町地球温暖化対策実行計画検討委員会

委員	・1-6 ページ、佐用町における地球温暖化対策について。「大規模太陽光発電所の設立」と記載されているが、この発電所は FIT 制度に基づいて設立されたものである。その FIT 制度が終わった段階のことはまだ分からぬと思うが、町としてそれを維持していくのか、収入がなくなれば廃棄するのか。そこを考えた上で掲載されているのか。
受託者	・あくまで現状として佐用町が取り組んでいることを記載しているため、ご指摘いただいた FIT が終わった後のこと（継続か廃棄か）については、こちらからは申し上げにくいが、今後の取り組みの中でこの発電所を活かしていくことになった場合は、事務局と調整しつつ、継続か廃棄についても改めて明文化させていただく。
委員	・大規模太陽光発電所は、佐用町だけでなく他にもたくさんある。すべて取り込めば相当のエネルギーの削減になるかもしれないが、もしその発電所が廃止になった場合、その契約をどうするかとなれば困るのではないかと思った。
委員長	・重要なご指摘である。基本的には 20 年、メンテナンスをしながら運用していくことになるため、2030 年まであれば問題ないはず。早くても 2034 年から 2039 年あたり。最近、パネルのリサイクルの話や事業後に放置される話をよく聞くが、廃棄のための積立が義務づけられている。しかも、外部での積み立て。その制度がうまく機能すれば、適切に廃棄されることになる。
委員長	・11 年ほど前に町では木製架台が採用されているが、これは大丈夫なのか。
委員	・当時、直接担当したが、木材架台は水に当たっても乾けば大丈夫という考え方で、今のところ、ひびが入ったりシロアリが発生したりといったことも聞いていない。
委員長	・1-6 ページ、1-7 ページ、大規模太陽光発電、バイオマス、早生樹、木材ステーションなどの写真を載せてほしい。文字ばかりだと読まないため、できるだけ入れてほしい。
委員	・佐用町には大規模太陽光発電所が 2ヶ所あるが、そこでどれだけの電気が貯わるかということが分からない。
受託者	・情報を追加させていただく。
委員長	・エネルギー自給率や電力自給率といった地域の指標がある。
委員	・1-6 ページ、佐用町における地球温暖化対策について。兵庫県の温室効果ガス排出量 48% 削減が目標とのことだが、佐用町ではこれらの対策で本当に削減できるのか、抽象的すぎて分からない。具体的にどこをどうするのか教えてほしい。
受託者	・すべてを数字化することは難しいが、できるところはしていきたい。
委員長	・ここでは「現状行っている地球温暖化対策」ということで、これでは不足しているため、これから我々が対策について検討するということ。
委員	・最終的には町としての具体的な数字を出すという認識でよいか。
受託者	・そのようにさせていただく。それは次回お示ししたい。

第1回佐用町地球温暖化対策実行計画検討委員会

委員	・佐用町は田舎で、住んでいる人口も少ないため、温室効果ガスに対してはマイナスに貢献しているのではないか。それなのに他の自治体と同じようなことをしないといけないのはおかしいのではないか。同じことをしてもよいとは思うが、その点についてはどうお考えか。
受託者	・おっしゃる通り、佐用町の豊富な森林資源は多くの CO ₂ を吸収しているため、そこを活かしてアピールしていく。最近は、カーボンニュートラルからさらに CO ₂ を減らしていくという意味の「カーボンマイナス」という言葉が出てきている。今後、排出量削減の取り組みを行えば、佐用町もカーボンマイナスになる可能性がある。そこを独自の地域性としてアピールしていってはどうか。佐用町は現状で 37% の CO ₂ 削減ができているため、2050 年にはゼロになるのではないかと見ている。森林吸収量も含めるとカーボンマイナスになるという考え方もできるのではないか。カーボンマイナスは、他自治体ではあまり謳われていないため、そこをアピールポイントとして出していけば、町の魅力としても伝わっていくのではないか。
委員	・しかし実際には、兵庫県内で佐用町がカーボンマイナスということは、他の所でもどんどんマイナスになっていくのではないか。
受託者	・山間部では森林資源で吸収できるというメリットがあるため、そういった森林資源のある自治体はカーボンマイナスになる可能性も考えられる。県内のある自治体ではカーボンマイナスまでは届かず、カーボンニュートラルで抑えていくということになったが、それは森林吸収量を高める目標を立てて、計画を作った経緯がある。
委員長	・アンケートの結果にも同様のご意見があった。重要なご指摘である。
委員長	・少し矛盾するが、個人的には、地球や脱炭素のために何かをやるのではなく、地域の課題を解決する、例えば森林の手入れ、その林業をどうやって進行していくのか、電気自動車の充電が家庭で充電できるといった、暮らしやすさや困りごとに対して脱炭素や地球温暖化対策で言われていることを当てはめると、その課題解決ができるかもしれない。そういう視点で、佐用町の得になるような組み立て方をすればよいのではないか。森林吸収量で CO ₂ を削減できているのであれば、その権利を他に売ることもできる（近隣でも最近そういった取り組みを始めている）。企業においても、いろいろな取り組みをすればコストが削減できるといったことがメインで、脱炭素や地球温暖化防止は副次的な効果として出していく形に組み立ててもよいのでは。
委員	・国が 46% 削減、兵庫県が 48% 削減、佐用町も 48% 削減という認識で間違いないか。それとも佐用町の数字は今後、決めるということか。
受託者	・佐用町の目標は今後、決めていく。
委員	・承知した。
委員	・写真を入れる場合は、どこにあるのかという場所の情報も記載していただきたい。
委員	・手入れした山林でなければならないという話になると、現状の山林の状況も入れる必要があるのではないか。手入れされている森林、育成山林、何もされていない山

第1回佐用町地球温暖化対策実行計画検討委員会

受託者	<p>林など、いろいろあると思うがその辺はどうなのか。</p> <p>・次回、お示しさせていただきたい。</p>
委員	<p>・利便性と温室効果ガスの削減について。利便性は抜きて削減についてだけを決めていくのか。</p>
受託者	<p>・利便性も加味した内容をご提案させていただく。対策に取り組むことによって地域がよくなっていくという視点をとらえた上で決めていかなければ、住民の方の協力も得にくい。先ほどの委員長のお話のように、例えば、森林に手をかけて保全していく、その森林による CO₂ 吸収量をお金（クレジット化）にする。企業に購入してもらう制度を利用し、収益を上げていく。それを地域の方に還元することも考えられる。実際にどれくらいの量になるかは今すぐには申し上げられないが、次回お話ししたい。</p>
委員長	<p>・1-2 ページ、日本の気候変動について。世界の気候と日本の気候がどれくらい上がっているかという実態と、熱中症による救急搬送や死亡に関する統計を追加していただきたい。2100 年の将来予測だけではなく、すでに出ていている影響についても共有しておいた方がよい。</p>
	<p>(3) 佐用町の地域概況（資料 3）</p> <p>資料 3 に基づき受託者（国際航業）が説明</p>
委員	<p>・ごみの排出量 1 人当たりの平均が全国と比べて多いということだが、都会であればコンビニもたくさんあるため、ご飯を作らないかもしれない。しかし、田舎はコンビニもないため、作るしかない。生活する中で、他の所はよその県で作ったものを持ってきて食べるだけだからごみが少ないのか、佐用町は町内で回すから多いのか。そういったことは関係していないか。</p>
事務局	<p>・にしはりまクリーンセンターが出来てから、ごみの分別方法が複雑になった（以前は燃えるごみ・燃えないごみ、という分け方のみ）。その後、数年間は全国的にも低い値で推移していたが、ここ何年かで資源ごみの割合が少し減ってきている。その分別されていない分がごみとして増えてきて、分別に対する意識が薄れてきていると感じている。</p>
委員	<p>・佐用町は週 1 回の収集だが、都市部では毎日、市や個人がマンションなどにも収集に来ている。佐用町の場合は、収集が町だけになっているため、ごみの量が多くなっている可能性もある。</p>
委員	<p>・それが 1 人当たりごみ排出量を押し上げていることか。</p>
事務局	<p>・その可能性もある。しかしながら、にしはりまクリーンセンターの中では佐用町が一番、資源分別率が高い。佐用町の皆さん非常に分別に対して協力的で、他と比べるとかなり差はある。しかし、分別割合が、多少減ってきているというのが現状。</p>
委員長	<p>・1-11 ページ、佐用町の位置及び地勢について。東西何 km といった、基本的な数値をもう少し入れていただきたい。後のページで山林の割合などを見るために、最初の段階で総面積を入れておいていただきたい。</p>

第1回佐用町地球温暖化対策実行計画検討委員会

受託者	・承知した。
委員長	・1-15 ページ、自動車保有台数について。町で電気自動車の台数は分かるのか。
事務局	・軽自動車であれば町の登録になるため分かるが、普通自動車は県の登録になる。
委員長	・県では分かるのか。
事務局	・調べたことがない。
委員長	・県に確認する。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・文章で所々、結論と説明が違う箇所があるため、事務局で見直していただきたい。 ・気づいた範囲でいうと、1-16 ページ 1 行目「第2次産業が全体の約 76%を占めており、特に第3次産業が突出しています。」とあるが、全体の約 76%を占めているのは第3次産業である。再度整理をして数字を見直していただきたい。 ・1-18 ページ、2 行目「ごみ排出量は 899g/人日（全国平均は 851g/人日）となっており、全国平均よりも低い水準となっています。」とあるが、これも「低い水準」ではなく「高い水準」になるのではないか。
	(4) 温室効果ガス排出状況（資料 3）
委員	資料 3 に基づき受託者（国際航業）が説明
受託者	<ul style="list-style-type: none"> ・2-2 ページの森林吸収量について。39.2%という記載があるが、これを「100%に持っていこう」というものなのか。どういう見方をすればよいか教えてほしい。温室効果ガスの 115.5 千t-CO₂ を減らしていく目標で、森林吸収量もできれば増えている方がよい。それを相殺することでゼロカーボンになると。つまり森林吸収量が 100%になればよいということか。あるいは、115.5 千t-CO₂ を減らしていく、森林吸収量をクレジット化して町へ還元する方法もある中で、最終的にはどうするのか。 ・今回の計画では、森林吸収量をどんどん高めて 100%にするというよりは、省エネルギーにも取り組みながら、温室効果ガス 115.5 千t-CO₂ をできるだけ下げていき、森林吸収も高める、そしてゼロにするということが目標になってくる。森林吸収量をクレジット化する場合、例えば 100t 分の森林吸収量をクレジットに変えて企業に買い取ってもらうと、その 100t 分だけ少なくなることはご理解いただきたい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・2-1 ページ、温室効果ガス排出量の推移について。10 年で 36.9% の削減ができていることは温室効果ガスの数値としてはよいが、これは何が原因か。業務その他部門も一番多いが、10 年で 45% も削減できている。この辺りの分析はどこまでできるのか。
受託者	<ul style="list-style-type: none"> ・先日、業務その他部門の町内の事業者からデータをいただいたばかりで、そこまでの分析はまだできていない。次回、その辺りも含めて皆さまにお示しさせていただく予定である。
委員長	・2030 年、2050 年までに産業が衰退し、人口も減っていき、それからカーボンニュートラルとなっても困るため、そのバランスは考えていただきたい。
受託者	・承知した。

第1回佐用町地球温暖化対策実行計画検討委員会

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネというと太陽光発電のことがよく出てくるが、20年、30年先のことを思うと、今はもう太陽光パネルはよくないという話も多く聞く。外国で作ったものを持ってきて、使い終わった後の処理で幾らお金を置いていたとしても、有害的なものがあって、それをゼロにできないような産廃。そのことを考えると、今ほど伸びずに衰退していくのではないか。今は貼れるタイプの薄い太陽光パネルも出ているが、紫外線に弱く長持ちしないものがあったり、風力発電についても大手会社が手を引いたという話をニュースで見たりしたので、カーボンニュートラルのためにエネルギーを作る、と決めてしまっているのはよくないのではないか。正直なところ、小さな原発を作った方が早いのではないかという話もよく聞く。
受託者	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電については、現在ほとんどが外国製のものという状況で、高市首相が国産に切り替えていくということを表明されている。原発についても進めていく方針である。現状、原発の電源構成 8%くらいのものを 20%くらいまで引き上げていくという国の政策がある中で、太陽光発電にしても国産にすることで耐用年数が改善される可能性はある。廃棄については、すでに環境省がリサイクルを検討している。「太陽光は本当にいいのかどうか」となったとき、ニュース等でよく取り上げられている無造作に敷き詰められたパネルや、法律を守らない事業者など、非常に悪い印象を受けるが、アンケートの結果では、実際に太陽光パネルを取り付けられた方が「電気代が安くなるのが実感できる」「メリットがある」と回答されている。メリットもデメリットもあるが、メリットをしっかりとお示しした上で、最終的な判断は住民の方々に任せる形になる。 ・風力発電については、特に洋上風力の工事費用が高騰しており、撤退という形のところはあるが、国としては洋上風力も陸上風力も進めていく方向で動いている。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・メリットもデメリットもあり、難しいところ。国産の太陽光パネルも技術が進んできたとはいえ、来年、再来年ともう少し待たなくては導入できない。メリットだけでなくデメリットも示していただきたい。
	<p>(5) アンケート調査結果(資料4)</p> <p>資料4に基づき受託者(国際航業)が説明</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・1ページにアンケート回答者の年代や絶対数が記載されているが、60代、70代が圧倒的に多い町の中で、各世代の代表の意見がきちんと出ているのかが気になる。 ・7ページ以降にあるご意見・コメントも、それぞれがどの世代のご意見なのかが気になる。 ・住民アンケートの結果は家庭部門の対象になるのか。その場合、事業者アンケートの結果はどの部門に該当するのか。そういったことをミックスして(資料3の2-1ページの表などと)リンクさせると、よりよいものになるのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートは無作為に送付している。10代が何人、20代が何人という分け方はしていないため、発送時の段階である程度の偏りはあったかと思う。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・しかしながら、回答率 58%ということで、非常に関心を持っていただいているのが分かる。20代の回答者も 5%いらっしゃるため、十分ではないかもしれないが、よい方ではないか。

第1回佐用町地球温暖化対策実行計画検討委員会

	・問11のご意見について。回答者の年代も並行して掲載していただければ、特に若い方がどのようなことを考えているのかが伝わる。回答内容の分類化もしてほしい。
委員長	・繰り返しになるが、太陽光発電のトータルでのメリット・デメリットは丁寧に記載していただきたい。最近いろいろな議論もあるため。
受託者	・そのようにさせていただく。
委員長	・国のような大規模な場合は環境アセスメントがあり、県の条例も強化されているため、一定規模(5,000 m ²)以上のものは事前にかなり慎重に審査される。今後はおそらく、山を切り開いて設置するといったことは制度的にあまり進められない。
	・太陽光パネルの製造と廃棄に必要なエネルギー、これについてもデータがあるものは示していただきたい。また、リサイクルにおける有害金属等の回収の仕組みなど。リサイクルはおそらく兵庫県内ではなく、県外(京都や岡山など)に運んでいかなければならぬ。過渡期にあり、制度が整っていない。そういった部分、問題点、メリット・デメリットも記載していただきたい。それらの情報提供があれば、かなりの疑問は解消されるのではないか。
受託者	・承知した。
委員	・太陽光パネルはお金絡み(儲け目的)で設置する人がいるから問題になる。個人の家ではなく大規模な設置をする人は、間に金融機関などが入ってお互いに商売に走っている。そのため、太陽光パネルが進むというとお金も絡んでいるように見えてしまう。
委員長	・太陽光パネルの設置については、土地に直接置くよりも、住宅や駐車場、オフィスや店舗の屋根などから重点的に進めていく。そこは最低限、合意できるとよい。もちろんデメリットは提示した上で。また次回、引き続き議論させていただきたい。
6 その他	次回は、12月25日に開催するが、改めてご案内する。
7 閉会	～略～

以上